

「国連向け署名と垣間見たウクライナ」

ウクライナに平和を生駒 代表 星野 智

<国連に向けた署名>

- 1、何故 国連署名を始めるに至ったか
 - ・ ウクライナ侵攻の衝撃と暗中模索 大使館へ抗議
 - ・ 「戦争を止めてほしい」の声に市民アピール
 - ・ 民間支援活動は、寄り添い – 越冬を支えるカイロ支援の広がり
 - ・ 「緊急提案」に光明
- 2、国連の見え方
 - ・ 安保理への失望による全面否定 ⇔ 国連総会の歴史と機能の発揮
 - ・ 漠然とした要望 ⇔ 和平へのプロセスを提案
 - ・ 武器支援の是非論に埋没 ⇔ 当事国を越えた世界的視点
- 3、署名内容と目的
 - ・ プーチンの戦略は 対抗手段は
 - ① 外交面 拒否権による 国際世論の牽制 ⇔ 「平和の結集決議」の生かし方
 - ② 軍事面 核による NATO の牽制 ⇔ 国連総会で、核使用の手を縛る
 - ・ 「緊急提言」の先駆性～
 - 国連に目を向けるための先駆け・呼び水 としての署名活動

<垣間見たウクライナ> (少ない情報源のため印象)

- ・ I ミサイルにより全土が戦場に (インフラ攻撃 原発 ダム破壊)
 - 国民全体へ精神的抑圧
- ・ II ブチャの悲劇
- ・ III ロシアに刻まれた、民族抑圧の記憶
- ・ 2014年クリミア侵略と世界に対する孤立感 – 国連に対する失望感

<民間支援の一例>

- ・ 国内避難者の避難所を西ウクライナに ⇒ メンタルケア・リハビリ施設の建設
- ・ 交流団体が全方位で資金を集め、立上げに至る
- ・ 現地との交流の輪の広がり

<(国連の)今後に思う事>

- ・ 核廃絶を前提とした国連のあり方へ
- ・ ザポリージャ原発の非武装地帯化がチャンス
- ・ ウクライナ、そして日本の役割は大きい → 署名など、声を広げるアクション